

高等学校・地域における日本語指導・支援に関するヒアリング

愛知県立岩倉総合高等学校

報告者 額額由起（教諭）

1 学校・団体の概要

学校・団体名	愛知県立岩倉総合高等学校
制度上の特徴	学校の場合 課程（全日制） 学科（総合学科） 単位履修制（ ） 外国人生徒等選抜実施校（定員の5%） 令和2年度より
住所	愛知県岩倉市北島町川田1番地
代表・連絡先	0587-37-4141
ウェブサイト等	https://iwakura-h.aichi-c.ed.jp

2 指導・支援対象の生徒について

- 人数 9人
- 言語文化背景
ヒンディー語 2人、ウルドゥー語 3人、英語 1人、タガログ語 2人、ビサヤ語 1人
母語は学習言語ではない
- 滞日期間
2年 1人、3年 3人、4年 2人、5年 1人、6年 1人、10年 1人
- 来日理由（在留資格も含めて）
全員保護者の仕事の都合で来日（定住）

3 指導・支援体制について

- 外国人生徒等の教育／支援に携わっている教員の指導・支援内容・立場・人数
学校生活のフォロー、日本語授業、取り出し授業、日記指導、居場所作り
教諭1人、常勤講師2人（計3人）、母語支援員1人
- 組織内・外の指導・支援の仕組み・組織
教務部の下部組織として外国人生徒コーディネーターを置く
県からの調査回答や母語支援員の管理、担任や授業担当者とのやりとり

4 報告する取り組みについて

- 目的
外国人生徒選抜制度により入学した生徒が円滑に学校生活を送り卒業できるようサポートすること
（令和6年度からは一般選抜で入学した生徒のうちDLAの結果、支援が必要とされた生徒も含む）
- 取り組み
別紙資料参照
- 成果と課題
ア カリキュラム
教えるべき日本語の内容とは
取出し授業の内容、実施の難しさ
イ 普通科高校卒業の壁
定員枠があっても門戸を開けない。
一般生徒のレベルが低くないため、取り出せない授業が難しくなる。
入学してきても適切な指導が実現できない。

22024年3月16日

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット（ユニットC）

文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」事業

ウ 特別の教育課程導入の難しさ

取り出し授業 or 特別の教育課程 or 学校設定科目

→同列に考えられてしまう（少人数のため開講は不可能など）

教員配置の問題

組織の中で、外国人生徒対応だけが特別なわけではない。

エ 評価

取り出し授業の評価をどうつけるか

特別の教育課程（言葉による評価）の場合、大学の推薦入試、就職の場合の評価はどうなるのか。

オ 制度自体に対する戸惑い

一般生徒に手いっぱいのため二の次になってしまう。

教員はそもそも外国人生徒を教えるつもりではない。

通常業務に+αで上積みされる

カ キャリア教育

システムは整えたものの、外国籍の生徒のやる気の問題がある。

JLPTは合格するが、日本語の力自体がついているようには思えない。

キ 母語

母語について不安に思っている生徒が多いが母語指導までは手が回らない